



白河市 議会だより

2022.5.1

1月臨時会
3月定例会

VOL.66



そばパスタが食べられるお店
「浜のや(昭和町)」の「タラコそばパスタ」



「そばパスタ」を開発し「ふくしま満天堂」でグランプリ、新東北みやげコンテストで受賞した(株)カタノの片野仁人さん(桜町)。



大堀相馬焼「いかりや窯」13代目窯主の山田慎一さん(池下)。松平楽翁公が藩の財政を潤そうと作らせ、今では幻となった「白河焼」。白河の土を使ったこの「白河焼」の再現にも挑戦しています。



白河焼

〈令和4年1月臨時会・3月定例会〉

目次

- ・ 1月臨時会…………… 2p
- ・ 3月定例会／予算の概要／総括質疑／注目事業…………… 3～5p
- ・ 討論・採決／意見書／ICT検討委員会…………… 6～8p
- ・ 人事案件、議会傍聴…………… 9p
- ・ 各常任委員会の審査…………… 10～13p
- ・ 一般質問…………… 14～19p
- ・ 6月定例会予定／南湖条例／取材レポート／編集後記 …… 20p



1月臨時会

1月臨時会が1月31日に開催され、**新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金** **質疑1**などを財源とする議案第1号令和3年度一般会計補正予算（第9号）、5億8,464万5千円が審議され原案のとおり可決されました。

主な事業と**質疑**は次のとおりです。

- 低所得者世帯支援事業(生活応援金給付事業)…… 1,526万2千円
- 農業振興対策事業…………… 2,234万3千円
 - 農業経営収入保険加入促進事業** **質疑2** …… 360万円
 - 米価下落緊急対策事業** **質疑3** …… 1,874万3千円
- 道路改良事業 …… 4億8,074万円
- 宅地耐震化推進事業 …… 4,200万円
- 小学校・中学校一般管理費 …… 2,430万円



北野唯道議員

質疑1 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について

答 この交付金は、感染症の拡大防止、感染拡大で影響を受けている地域経済・住民生活への支援、アフターコロナに備えた事業に活用でき、総額16億171万1千円で今回の1月補正では、4,975万5千円計上している。

質疑2 農業経営収入保険加入促進事業で保険料の一部補助について

答 本市の農業経営体数は1,702経営体（米農家は1,569経営体）で、その内青色申告者は320経営体あり、昨年12月末までの収入保険加入者は105経営体である。

収入保険制度は掛け捨てとなる保険方式のため、加入者の負担となるが、ナラシ対策は国の交付金と加入者の積立金の返納により補てんされるため対象外とした。



佐川京子議員

質疑2 農業経営収入保険加入促進事業を今回なぜ実施することにしたか

答 コロナ禍が長期化するなか米価下落等様々なリスクに備えるため。

質疑3 米価下落緊急対策事業について、県同様種もみ代の一部補助をなぜ決めたのか

答 生産者の営農継続や意欲向上につなげるため。



種もみ



議会に提出された議案について疑問や不明確な点があるときに説明を求めるもの。

ウクライナ軍事侵攻に抗議

3月2日本会議の冒頭において、ロシアによるウクライナ軍事侵攻による犠牲者の方々に黙とうを捧げ、ロシアへの抗議の意思を示すため、3月4日に白河市議会として「ロシアによるウクライナ侵攻に抗議する決議」を全会一致で採択しました。

また、赤十字社が実施する救援活動を支援するため「ウクライナ人道危機救援金」10万円を3月28日に贈りました。

3月定例会



提出者の高橋議員

3月定例会

3月定例会は、2月24日から3月14日までの19日間の会期で開かれました。鈴木和夫市長より施政方針が述べられ、一般質問に17人、総括質疑（5頁）に2人の議員が教育・福祉・防災などについて市の考えを質しました。（14～19頁）

市長提出議案は82件で、人事、条例の一部改正、補正予算、令和4年度一般・特別・企業会計予算などを審議し、いずれも原案のとおり可決及び同意されました。

今号では新年度予算の概要と主な事業（3～5頁）、総括質疑（5頁）、賛否が分かれた令和4年度一般会計予算及び意見書に対する討論（6～7頁）を主にお知らせします。

議案ピックアップ

- ◆市長提出議案…82件
（うち人事案件47件は9頁）
- ◆議員提出議案…2件（2・7頁）
- ◆請願…2件（8頁）
- ◆委員会提出議案 3件（8頁）
- ◆選挙…1件（9頁）

全ての議案の審査結果は市議会ホームページをご覧ください。



予算総額 474億6,114万円

会計区分	令和3年度 A	令和4年度 B	比較増減	
			増減額(B-A)	伸び率(%)
一般会計	287億 2,000万円	286億 8,000万円	▲ 4,000万円	▲ 0.1
特別会計	121億 5,326万円	121億 9,964万円	4,638万円	0.4
企業会計	66億 2,034万円	65億 8,150万円	▲ 3,884万円	▲ 0.6
合計	474億 9,360万円	474億 6,114万円	▲ 3,246万円	▲ 0.1

特別会計、企業会計

本市には、一般会計の他、国民健康保険特別会計など、特定の事業を目的に設けられている7つの特別会計と独立採算により事業を展開している水道・下水道・工業用水道の3つの企業会計が設けられています。

新年度一般会計予算 286億8,000万円 (前年度比 4,000万円減 ▲ 0.1%)

歳入	内 訳	金 額	増 減
	一般財源	183億 7,488万円	2.1%
	市税	90億 6,772万円	5.6%
	地方交付税	72億 1,922万円	▲ 2.8%
	各種交付金	20億 8,794万円	5.4%
	特定財源	103億 512万円	▲ 3.9%
	国県支出金	66億 4,758万円	▲ 1.4%
	繰入金	9億 7,807万円	▲ 7.4%
	市債	17億 7,930万円	▲ 9.2%
	その他	9億 17万円	▲ 6.9%

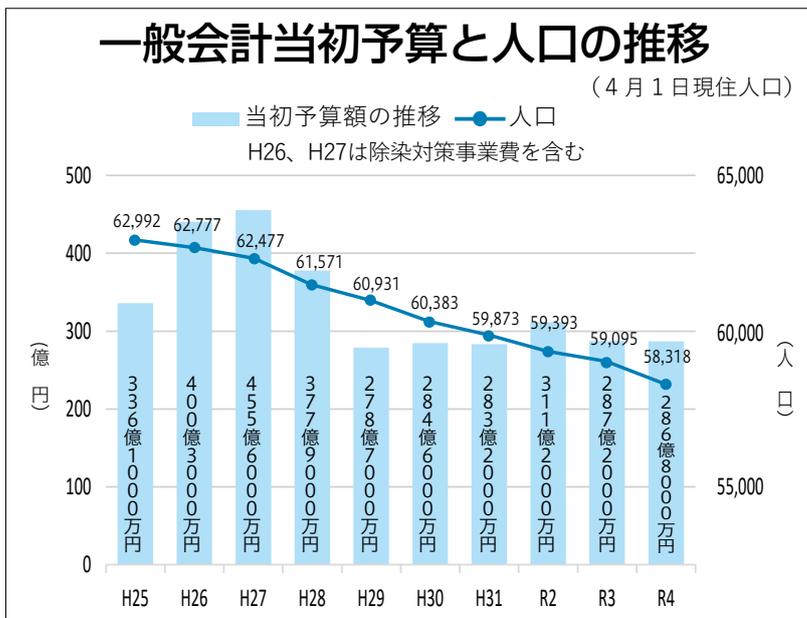
歳出	内 訳	金 額	増 減
	義務的経費	134億 2,432万円	2.9%
	人件費	49億 8,875万円	3.6%
	扶助費	51億 8,043万円	1.1%
	公債費	32億 5,514万円	4.6%
	投資的経費	37億 5,536万円	▲ 6.8%
	主なもの		
	白河第二中学校建設事業	7億 5,651万円	—
	道路改良事業(交付金)	5億 7,965万円	—
	住みよい街づくり事業	3億円	—
一般行政経費	115億 32万円	▲ 1.2%	
主なもの			
新型コロナウイルスワクチン接種事業	2億 1,454万円	—	
白河っ子すくすく応援クーポン券支給事業	4,191万円	—	
マイナンバーカード普及促進事業	8,008万円	—	

未来の白河を創造するために

令和4年度予算の概要

一般会計の予算額は286億8千万円となり、対前年度比較で4千万円、率にして0.1%の減、特別会計及び企業会計を含めた全会計の予算規模は、474億6千万円となり、対前年度比較で3千万円、率にして0.1%の減となりました。

長引くコロナ禍がもたらした社会構造や生活スタイルの変化を地方再生の好機と捉え、前例や既存概念にとらわれることなく事業の見直しを行い歳出の効率化に努める一方、人口減少対策や地方経済の活性化に向けた事業の着実な推進、アフターコロナにおける地域活力の再生など、未来の白河を創造する施策に重点を置いた予算編成です。



保育園・幼稚園施設環境整備事業

新規

363万円

安心して保育・教育のできる環境を整備するため、保育園、幼稚園に防犯カメラを設置する。



消防団運営事業

拡充

6,863万円

消防団員の処遇改善及び人員確保を図るため、年額報酬と出動報酬の見直し等を行う。



白河っ子すくすく応援クーポン券支給事業

拡充

4,191万円

クーポン券（3万円分）の支給をこれまでの1歳児以下から、対象年齢3歳児以下に拡充する。



高齢者見守り生活支援事業

継続

1,938万円

高齢者サロン、集会所、個人宅へ移動販売車による巡回をし、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりを行う。



アフターコロナに向けて
議員が注目する事業

3月議会定例会 総括質疑をご紹介します。



須藤 博之 議員

議案19号 令和4年度一般会計予算

Q 学校図書館蔵書整備強化事業について

A 児童生徒の読書推進と学習活動支援のため、蔵書達成率を5か年計画で100%に引き上げる予算で、達成率が低い学校へ傾斜配分をするものである。

Q 移動図書館「ゆるりぶ」運行事業について

A 図書館サービスが及ばなかった方々に、軽トラックの側面に本棚を配置し、本の貸し出しサービスを行うもので、高齢者サロンを中心に月1、2回出向いて行くことを予定するものである。

Q 子育てスキルアップ事業について

A 発言の遅れや指差し・指示理解等ができない子どもたちが多く見られ、愛着形成不全対策として、脳と心と体をはぐくむ遊びの教室をアナビススポーツプラザと保健センターで月1回開催するものである。

Q 屋内遊び場「わんぱーく」について

A 木製大型遊具や知育玩具を導入し、子どもたちが自ら楽しめる環境と、遊び方教室や親子で楽しむイベントを開催するものである。



深谷 弘 議員

議案10号 犯罪被害者等支援条例

Q 犯罪被害者等基本法の制定(平成16年)から17年。条例制定が遅れた経緯は。

A 県は平成20年犯罪被害者等の支援推進を規定した条例(防災・防犯含む)を公布。しかし、「京都アニメーション放火殺人事件」などの凶悪事件発生で、更なる被害者支援が求められ、昨年県で犯罪被害者等支援条例を策定。さらに広域的支援の実効性を高めるため、市に条例制定の要請があり、今回の提案となった。

Q 相談・情報提供の窓口、見舞金の支給はどうなるか。

A 総合的な窓口を生活防災課内に設置。被害者遺族見舞金、重傷病見舞金、転居費用助成金などがある。

議案19号 令和4年度一般会計予算 地域内移動支援事業

Q 予算説明で事業の拡充となっている。その内容は。

A この事業は、運転免許証を持たない「満75歳以上の高齢者」及び「障がい者」を対象に、バス・タクシー助成券を交付するものだが、これまで障がい者福祉制度で通院等の交通費助成を受けていると対象にならなかったものを改善。対象に加えることにした。

農業の未来をつくるスマート 農業推進事業

拡充

1,400万円

農作業の効率化を図るため、ICT機器及びロボット技術導入による経費の一部を補助する。また、一定の事業費を超える場合は、上限をかさ上げる。



しらかわ観光ステーション 整備・活用事業

継続

1億4,527万円

JR白河駅舎に隣接する既存建物を体験型の観光案内所に改修し、コンピューター広場と一体的に整備することにより、新たな賑わいを創出する。



複合施設整備事業

継続

1億6,140万円

市民会館跡地に「健康増進」「子育て支援」「生きがいがづくり」を柱とした複合施設を整備するため、基本計画・実施設計及び管理運営計画に着手する。



空き家対策計画改定事業

拡充

1,077万円

市内空き家の実態調査を行い、平成30年3月に策定した空き家対策計画を改定する。



賛成か反対か



議案に対し賛成か反対か、自らの意見を表明し、その理由等を述べるのが討論です。

01 討論の対象議案

○議案第19号 令和4年度白河市一般会計予算

コロナ禍を乗り越えて未来への布石を打つために編成した一般会計予算総額286億8千万円の議案

02 常任委員会の採決

各常任委員会に付託され審議した結果、議案第19号を原案のとおり可決することについて
→全会一致もしくは賛成多数で可決

03 本会議の討論



賛成

議案第19号に対する討論

反対

大木 絵理 議員

新年度の予算案において、歳入ではコロナ禍の影響が懸念された市税収入が前年度を上回る見込みとなり、また、各事業の実施においては、国・県補助金を積極的に活用するなど、必要な財源確保に努めたものと理解している。歳出では6つの重点推進プロジェクトを掲げ、予算の配分がなされている。

現下の社会・経済情勢や国・県の動向を踏まえ、直面するコロナ感染対策をはじめとした行政課題に的確に対応した予算であると認識している。

深谷 弘 議員

施政方針では、ワクチン接種をはじめ、子育て支援や医療介護の充実など、市民のいのちと暮らしを守る施策を基本とし、同時にアフターコロナも見据えた産業の振興、女性・若者の応援、地域の魅力向上等に重点的に予算を配分したと述べられているが、基本的には評価できる。

例えば、子育てに係る保護者の経済的負担を軽減する「白河っ子すくすく応援クーポン事業」では、対象及び対象品目が拡大され、妊産婦健診事業では、17回の健診費用を助成。多胎の妊婦には追加健診分も助成するなど充実が図られたことは評価できる。

しかし、市の財政状況(余裕財源が約88億円)でできることはまだまだたくさんある。

例えば、多子世帯の給食費助成の対象を第2子に拡大するための財源は半額免除で約3,300万円。ごみ袋無料化は、広域圏への市負担金を増やせばすぐに実現できる。

財政運営については、今後とも具体的提案をしながら、議論していくことを述べ反対討論とする。

04 本会議の採決

議案19号を原案のとおり可決することについて

賛成22人 反対1人により賛成多数で



議案名	大木	吉見	鈴木	高島	戸倉	荒井	根本	室井	緑川	柴原	菅原	北野	水野	佐川	藤田	大花	縄田	石名	高橋	大竹	山口	須藤	深谷	
※○は賛成 ●は反対 ※議長(筒井孝充)は採決に加わらない	絵理	優一郎	裕哉	裕	宏一	寿夫	建一	伸一	摂生	隆夫	修一	唯道	谷正則	京子	文夫	務	角郎	国光	光雄	功一	耕治	博之	弘	
議案第19号 令和4年度白河市一般会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●

地域の将来を担う人を育て、いきいきと暮らせる楽しい白河



01 討論の対象議案

○意見書案第1号

「東京電力福島第一原子力発電所事故に関する風評を抑止するため、科学的知見に基づいた正確な情報の発信を求める意見書」

〈要旨〉

5人の元首相経験者は、令和4年1月27日付で欧州委員会委員長宛に「脱原発・脱炭素は可能です-EUタクソノミーから原発の除外を-」と題する書簡を送付した。書簡中、東京電力福島第一原子力発電所の事故で「多くの子供たちが甲状腺がんに苦しみ」とする記載があるが、放射線被ばくによる健康被害に言及する際は、科学的・医学的知見に基づいた正確な情報を発信すべきである。

02 質疑



03 本会議の討論

賛成

意見書案第1号に対する討論

反対

室井 伸一 議員

5人の元首相経験者が、令和4年1月27日付で欧州委員会委員長宛に出した書簡に、東京電力福島第一原子力発電所の事故で「多くの子供たちが甲状腺がんに苦しみ」とする記載があったことが報じられ、大きな反響を呼んだ。

内堀雅雄福島県知事はじめ、岸田文雄首相および政府高官は、それぞれの立場に立って遺憾の意を表明している。

このようなことから、白河市議会として政府に対し、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う課題については、あらゆる機会を通して、科学的・医学的知見に基づいた正確な情報を発信するよう強く求めるのは、福島県に住む住民として当然であり、義務であると考えている。

深谷 弘 議員

本意見書は、5人の元首相経験者の欧州委員会への書簡における「多くの子供たちが甲状腺がんに苦しみ」との記述は「科学的・医学的知見に基づいた正確な情報」ではないと指摘し、科学的・医学的知見に基づかない情報や風評に対し、政府が科学的・医学的知見に基づく正確な情報を発信するよう求めるものである。

書簡の趣旨は、原発事故がもたらした悲劇と放射能汚染の経験から、欧州委員会が気候変動対策に原発を含めようとしていることに異を唱えるもので妥当な内容である。確かに、指摘部分は「正確な情報」ではないが、この部分を持ち出し政府に正確な情報発信を求めるのは筋違いである。

市議会は、政府のアルプス処理水海洋放出方針に反対し、再検討を求める意見書を採択。関係者・国民の理解と合意が得られるまでは陸上保管を継続するよう求めてきた。風評被害を生じさせない最良の方法は、処理水を海に流さないことである。政府の海洋放出方針の撤回を求める意見書こそ提出すべきではないか。

04 本会議の採決

意見書案1号を原案のとおり可決することについて

賛成22人 反対1人により賛成多数で



議案名	大木 絵理	吉見 優一郎	鈴木 裕哉	高島 裕	戸倉 宏一	荒井 寿夫	根本 建一	室井 伸一	緑川 慎生	柴原 隆夫	菅原 修一	北野 唯道	水野 谷正則	佐川 京子	藤田 文夫	大花 務	縄田 角郎	石名 国光	高橋 光雄	大竹 功一	山口 耕治	須藤 博之	深谷 弘
意見書案第1号 東京電力福島第一原子力発電所事故に関する風評を抑止するため、科学的知見に基づいた正確な情報の発信を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●

※議案第19号の賛否は6ページに掲載。その他の議案は全会一致で可決しました。

関係機関に意見書を提出しました



議会としての意見や希望を意見書として国会、関係行政庁に提出できること。

採択か不採択か



提出された請願は議会運営委員会で審査した後に本会議で審査します。採択されたものは市議会の意見書として関係機関に提出します。

01 請願

請願第1号

「消費税インボイス制度の実施中止に関する請願書」

白河民主商工会長

〈要旨〉

- 2023年10月からインボイス制度（適格請求書）導入に向けて、昨年10月からインボイス発行事業者の登録申請が始まった。
 - これまで、年間の売上げが1,000万円以下の業者は消費税の納税が免除されてきた。しかし、インボイス制度は消費税の販売価格に転嫁できない業者にも課税業者になることを迫っている。
 - コロナ危機の下、多くの中小零細事業者にこれ以上負担を課すことは、コロナ禍からの経済再生を阻害することになる。
1. インボイス制度の実施中止を求める。

請願第2号

「福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める請願書」

日本労働組合総連合会福島県連合会白河地区連合議長

〈要旨〉

- 福島県は人口減少に伴い生産年齢人口の減少や非正規労働者増加など雇用形態の多様化が進んでいる。
 - コロナ感染の影響を見据えたセーフティネットの強化策及び人口流出抑制策としても最低賃金引き上げと早期発行は喫緊の政策である。
1. 福島県最低賃金は、毎年年率3%程度を目途に引き上げをはかること。
2. 中小企業が最低賃金引上げ原資捻出のため、価格転換を始めとした環境整備の充実、強化をはかること。

02 議会運営委員会の採決

採 択



地方議会に対する請願の提出には紹介議員が必要。提出された請願は、議会としての採択、不採択の決定をする。



議会としての意見や希望を意見書として国会、関係行政庁に提出できること。

03 本会議の採決

請願・意見書全会一致で採択 関係機関に意見書を提出しました。

採 択

意見書案第2号

消費税インボイス制度の実施中止に関する意見書

意見書案第3号

福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書

ICT検討委員会を設置

議会運営の効率化及び迅速化を図りICTの導入について調査研究するため、1月31日に設置しました。



委員長 佐川京子 副委員長 鈴木裕哉 委員 菅原修一、室井伸一、山口耕治、深谷 弘、柴原隆夫

- 1. タブレット端末の活用
- 2. ペーパーレス化の導入
- 3. 迅速な情報伝達
- 4. オンライン会議の開催
- 5. SNSの利活用

※ ICT Information and Communication Technology (情報通信技術) の略

人事案件

各委員会における委員の任命、推薦、選任について
いずれも全会一致で同意しました。

議案名と委員の任期	委員の氏名(敬称略)			
議案第 37～ 55号 白河市農業委員会委員の任命について 任期：3年	茂木 一男(明戸) 鈴木 實(本沼下河原) 小泉 光敏(小田川小田ノ里) 関 満理子(一番町) 穂積 正(表郷番沢) 大戸 文治(大信増見) 梨本 清太(東上野出島)	早津 和一(七番町) 今井 寛美(大観音前) 有賀 良雄(田島本木前) 和知 久衛(表郷河東田) 高久 亨(大信隈戸) 山内 喜一(東釜子)	鈴木 信秋(北裏) 矢野 正則(白坂愛宕山) 伊藤 孝(旗宿茂ヶ崎) 橋本 賢一(表郷梁森) 塩田 一也(大信中新城) 遠藤 一郎(東釜子)	
議案第 56～ 62号 人権擁護委員の候補者の推薦について 任期：3年	宮本多可夫(旭町三丁目) 松川 典夫(旭町三丁目) 鈴木 千代(東釜子)	小磯 厚子(中田) 櫻井 厚志(大搦目山)	佐藤 正弘(三番町) 大橋 信子(双石板谷地)	
議案第 63～ 69号 小田川財産区管理委員会委員の選任について 任期：4年	星 倉夫(小田川小田ノ里) 鈴木 喜幸(萱根根田) 鈴石 博美(豊地桜地) 酒井省治郎(小田川牛清水)	鈴木 行男(萱根七斗蒔) 藤田 光孝(泉田池ノ上) 鈴木 武宏(小田川)		
議案第 70～ 76号 大屋財産区管理委員会委員の選任について 任期：4年	緑川 政男(大信隈戸) 鈴木 長一(大信隈戸) 佐藤 金英(大信下小屋)	菅森 利栄(大信隈戸) 添田 幸一(大信下小屋)	岡部 修一(大信隈戸) 吉成 憲次(大信下小屋)	
議案第 77～ 83号 樋ヶ沢財産区管理委員会委員の選任について 任期：4年	中崎 辰雄(大信隈戸) 國井 孝士(大信増見) 戸倉 泰男(大信中新城)	班目 正男(大信隈戸) 金沢 鶴一(大信町屋)	佐藤 彰司(大信下小屋) 薄井 房幸(大信上新城)	
選挙管理委員会委員及び補充員の選挙(任期：4年) 地方自治法の規定により議会の選挙において、8名の方が当選されました。				
委員	近藤 洋一(表郷番沢)	藤井 勝美(新白河)	箭内 徳二(影鬼越)	酒井 良子(東釜子)
補充員	佐藤 貞一(大信豊地)	早津 和一(七番町)	緑川 一男(表郷下羽原)	吉田 義明(東釜子)

議会傍聴が貴重な体験に ～3月定例会の傍聴者の声～

私は今回初めて議会を傍聴しました。中でも一般質問において、議員の方々が多様な視点から納得のいくまで質問を重ねていた姿が印象に残っています。インターンシップに参加していなかったら傍聴していなかったと思うので、大変貴重な経験になりました。

東北福祉大学 2年 箭内あずみ

インターンシップに参加したことで、今回初めて議会を傍聴しました。議会の雰囲気や市民の期待を背負っている議員さんの姿は緊迫感を感じました。貴重な体験になったと思っています。今回の傍聴を通して、選挙に対して関心が低かったのですが、今後は積極的に選挙に行き投票したいと思います。

福島学院大学 3年 本田清司



〈お詫びと訂正〉

前回の議会だより(第65号)5頁において、教育委員の北條氏の記載に誤りがありました。

【誤】北条 睦子氏(東上野) ⇒ 【正】北條 睦子氏(東上野出島)

ここに訂正してお詫び申し上げます。

総務 常任委員会

インフルエンサーを活用し、本市の魅力を発信 移住定住の促進を図る

白河市部設置条例の一部を改正する条例のほか議案8件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

● 議案第4号 白河市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例

育児休業を取得しやすい勤務環境の整備が義務付けられた

Q | 市職員おける育児休業の状況は？

A | 令和3年度現在、正職員の育児休業取得者は、男性が1名、女性が22名である。職員向けの「子育て支援ハンドブック」を有効活用し、出産・育児に関する各種制度の理解や周知を図りながら、引き続き育児休業等の取得促進に努めていきたい。

● 議案第19号 令和4年度白河市一般会計予算

ふるさと納税寄附額の目標を7,000万円に

Q | ふるさと納税の実績は？

A | 令和元年度は3,731万1,000円、令和2年度は4,336万8,000円である。令和3年度は寄附額を増やすための様々な努力を重ね2月末現在で5,000万円を超えている状況にある。令和4年度は、7,000万円を目標に、引き続き様々な取り組みを通して地元産品を知っていただくとともに、本市の魅力を積極的に発信したい。

● 議案第19号 令和4年度白河市一般会計予算

インフルエンサーがおためしで市内に居住し、本市の魅力を発信する

Q | 移住・定住推進事業について

A | 首都圏などで活動するインフルエンサー（世間に与える影響力が大きい人物）に市内でおためし居住してもらい、その様子をYouTubeで配信することで、本市の暮らしやすさや魅力を発信し、県内外からの移住、定住の促進を図りたい。

● 議案第19号 令和4年度白河市一般会計予算

予約型乗合タクシーの利便性向上のため、庁舎での予約やLINEによる予約システムの導入を検討

Q | 予約型乗合タクシー実証実験の利用状況は？

A | 令和3年度の利用者（11月末現在）

表郷地域	・・・	利用実績なし
大信地域	・・・	30便、30名
東地域	・・・	154便、344名

今後は各地域の利用状況に応じ、目的地や運行便数などを見直すほか、庁舎での予約やLINEによる予約システムの導入も検討し、さらに利便性の向上に努めていきたい。





議会で話し合う内容は幅広く複雑です。すべてを本会議で審議することは効率的ではないため、4つの委員会
会で各専門分野の議案などについて審査しています。議員はそれぞれ1つの委員会に所属しています。

市民産業 常任委員会

犯罪被害者等への支援を総合的に推進

白河市災害見舞金等支給条例の一部を改正する条例のほか議案7件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

● 議案第10号 白河市犯罪被害者等支援条例

犯罪被害者等に見舞金を支給

Q | 想定される犯罪行為及び具体的な支援策について

A | 県では、殺人、強盗致死傷、傷害、強制性交等、強制わいせつ、危険運転致死傷等の故意の犯罪行為を想定しており、市も県と連携し、対応していくことから、同じものになると思われる。見舞金の額やその他必要な施策など、詳細については、施行規則に定めることになる。

犯罪の被害を受けた人々への支援を総合的に行うとともに、被害の軽減や生活の再建ができるようにするなど、安全で安心して暮らすことができる地域社会を実現するために制定されたもの。

クローズアップ
アップ案例
4/1施行

● 議案第30号 令和3年度白河市一般会計補正予算(第11号) (戸別受信機負担金について)

個人だけではなく、事業所への貸与も行っている

Q | 防災ラジオの普及状況はどのようになっているか

A | 白河地域が22.8%、表郷地域が67.2%、大信地域が56.6%、東地域が64.3%、市全体で31.4%であり、今後も市ホームページや防災出前講座、町内会連合会を通じてさらなる普及を目指したい。



● 議案19号 令和4年度白河市一般会計予算(緊急^{しゅんせつ}浚渫推進事業)

優先度の高いため池から浚渫工事を行う

Q | 浚渫するため池及びその選定方法は

A | 決壊や溢水した場合の危険度や堆積土砂の比率を表す堆砂率により取り組みの優先度を選定する。令和4年度は、「夏梨池ナンバー2」、「庭渡(にわたり)池」、「前田池」の3ヶ所の「ため池」について土砂浚渫工事を行う予定となっている。



施工前



施工後

市内の学校図書館に更なる蔵書の充実をはかる

白河市国民健康保険税条例の一部を改正する条例のほか議案11件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

● 議案第9号 白河市デイサービスセンター条例の一部を改正する条例

表郷デイサービスの休館日を変更

Q | 休館日が変わることで利用者に支障をきたすことはないか

A | これまで、表郷デイサービスセンターの休館日は土曜日であったが、比較的利用者の少ない日曜日へと変更するもの。事前に利用者に調査し、不利益をこうむる利用者はいないことを確認している。

● 議案第14号 白河市公民館条例の一部を改正する条例

白河市中央公民館の各分館を廃止

Q | 改正の内容を伺う

A | 公民館の各分館は、既に各行政センター内に設置されており、公民館としての位置付けを廃止し整理するものである。関連分館のみ解体し更地にする予定である。

● 議案第19号 令和4年度白河市一般会計予算

未来を担う子供たちのために

Q | 学校図書館利活用推進事業について

A | 児童生徒の読書を推進する目的で、各学校図書館に司書を配置し、更なる蔵書の充実をはかる。デジタル化が進むなかにおいても、本の重要性を伝える。

インフルエンザの発症と重症化を防ぐために拡充して行う

Q | インフルエンザ予防接種費用助成事業について

A | 感染症対策と子育て支援の拡充を図るため、これまで受験を控える中学3年生に実施してきたインフルエンザ予防接種費用助成（1回：2,500円）の対象を（生後6ヶ月以上）中学生以下と重症化リスクの高い妊婦に拡大する。

現地調査

ICT教育

令和4年1月19日、小野田小と白河中央中学校に伺い、タブレットを使った授業を見学しました。これまでの詰め込み型の学習とは一変し、先生と生徒達が意見や答えを瞬時に共有できる画期的なものでした。

今後はこれらを上手に使いこなすスキルアップが求められます。



小峰城清水門は令和6年度中の復元を目指す。 「小峰城一石城主プロジェクト」を周知する。

白河市旧脇本陣柳屋旅館建造物群条例の一部を改正する条例のほか議案10件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

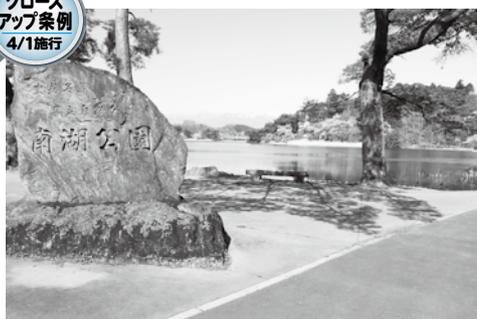
● 議案第15号 南湖条例

南湖を次世代へつなぐため

Q | 条例を制定する意義と、南湖の環境保全及び水質について

A | 国道294号白河バイパスが開通することで交通のアクセスが劇的によくなる。条例を制定し明文化することで、南湖が白河の宝であると改めて認識することができる。今後も南湖の魅力を発信する各種事業を展開する。また、南湖という宝を磨くため、環境保全や水質など改善すべき課題の把握、適切な管理方法や水質浄化の方策について、引き続き取り組む。

クローズ
アップ
条例
4/1施行



「土民共楽」の理念のもと、松平定信によって1801年に築造された公園に南湖条例誕生（詳しくは20頁）

● 議案第30号 令和3年度白河市一般会計補正予算（第11号）

清水門は令和6年度中の復元を目指す

Q | 小峰城清水門復元の進捗状況と今後の予定は

A | 建築にかかる総費用はおよそ6億円で、そのうち「小峰城一石城主プロジェクト」で15万石、1億5千万円を目標に寄附を募っており、現在の石高は、4万6千石である。引き続き周知し、多くの支援と協力をお願いする。復元予定は令和2年度、3年度に基本設計を、令和4年度に実施設計を、令和5年度、6年度に建築工事を計画しており、令和6年度中の復元を目指している。

現地調査

国道294号白河バイパス一部供用開始

国道294号白河バイパス「小峰大橋」の渡橋式が3月6日に行われ、橋を含む葉ノ木平から薄葉までの約1.2kmが開通したことから、3月8日に視察を行いました。全長192mの立派な大橋が架かり、今後の全線開通が楽しみです。



トピックス

市道 三輪台大倉矢見線開通式

令和4年3月28日(月)に市道三輪台大倉矢見線（737m）の開通式が行われました。この道路の開通により、県道白坂停車場小田倉線から新白河ライフパークや新白河ビジネスパーク、国道294号へのアクセスの利便性が向上しました。また、通学路の安全性も図られました。





- ◇一般質問とは行政全般にわたり、市長などの行政側に対し、現状や見通しを質問したり、あるいは報告や説明を求めたりすることです。
- ◇時間制限は質問、答弁時間を含めて60分以内です。
- ◇一般質問をする議員はその要旨を事前に通告することとなっています。

一般質問

3月定例会では17名の議員が一般質問を行いました。本会議のネット中継及び録画配信を行っています。ホームページや各議員のQRコードから視聴できます。



3月定例会において延べ57名の方が傍聴にお越しくださいました。ありがとうございました。

新年度、市長が重点的に取り組むことは

コロナ禍で明かになった医療・介護・人とのつながりを重視

過疎の指定を受けることになった。



大信地域はこの25年間の人口減少率が23%以上で、かつ本市の財政力指数が0.64以下で過疎地域に該当。また、合併時期の特例もあるため、旧市町村単位が過疎地域と見なされる「一部過疎」の指定を受けることになった。

Q 表郷、大信地域の「過疎地域」指定について、指定要件はどのようなものか伺う。
A 要件は「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」による。人口・要件と財政力要件を満たす場合で、表郷大信地域はこの25年間の人口減少率が23%以上で、かつ本市の財政力指数が0.64以下で過疎地域に該当。また、合併時期の特例もあるため、旧市町村単位が過疎地域と見なされる「一部過疎」の指定を受けることになった。



北野 唯道 議員



Q コロナ禍収束後の地域経済や市民生活の復興・再生に向けて、市長が特に重点的に取り組もうとしている令和4年度の主要事業は何か、お示し願いたい。
A コロナ後は地方が主役の真の地方の時代を迎えるものと捉え、これまで以上に地域の資源を活かし、地方で暮らすことの魅力を高め、発信していくことが重要であると考えます。まず、医療については市民から高い要望がある小児科や産婦人科を中心に医療機関の新規開業や医療継承に要する資金を支援し確保に努める。

白河市の未来像は？

子どもが健やかに成長し、誰もが活躍でき、愛着と誇りの持てる楽しい白河！

「廃校舎等利活用庁舎内検討会議」を設置し、検討を進めている。今後、地域住民の意見や提案を伺う機会を設ける。



Q 廃校となる五箇中学校の跡地利用の検討の進め方について
A 庁舎内に「廃校舎等利活用庁舎内検討会議」を設置し、検討を進めている。今後、地域住民の意見や提案を伺う機会を設ける。

Q 市有建築物のトイレ等のピクトグラム(絵文字)を利用者目線で見直してはどうか。
A 共生社会の実現に向け、利用者に配慮し活用する。



佐川 京子 議員



Q 隣国台湾の台南市との国際交流を促進し、将来、
A 「子どもが健やかに成長出来る白河」「誰もが活躍出来る白河」「愛着と誇りが持てる楽しい白河」の3点を白河市の未来像として掲げる。

国道289号表郷梁森・高木区間のバイパス化に向けて



根本 建一 議員

しっかりと県に要望していく



「国道289号のバイパス化について」
Q 表郷庁舎先梁森地区から高木地区の国道289号沿道の住宅密集区間は過去に横断中の死亡事故や車両の民家敷地内への衝突事故が多数発生している。また、騒音や振動に悩まされている市民の方もいる。市としてはこの区間の危険性についてどのように考えているのか。
A 沿道に人家が集中し、穏やかな5号の道路となっており、減速せずに通行する車が多いことから、事故の危険性が高い区間であると認識している。今後も早期の事業化に向け、しっかりと県に要望していく。

「未来をつくるスマート農業推進事業について」
Q この事業は今年度で3年目になるが、これまでにこの事業を進める中で、どのような課題があったのか、また、その対応について伺う。
A 農業機械のICT化は急速に進展している。そのため補助対象経費が500万円以上の機械導入について、上限を150万円に引き上げ、令和4年度当初予算を1400万円に拡充した。



台湾における福島を含む5県の輸入停止解除



水野谷 正則 議員

台湾と各種交流事業を進めてきた本市としても大歓迎



「台湾交流等について」
Q 台湾の福島県等5県の食品の輸入停止措置解除は、台湾と各種交流事業を進めてきた本市としても大歓迎。今年は、台南市で観光PRや白河産コシヒカリ、日本酒等のプロモーションなどを行う予定。
Q 防災・減災のため、退職自衛官や気象台OB、OGを任用してはどうか？
A 「地域防災マネージャー」や「気象防災アドバイザー」として導入を検討する。
Q 水系による水田の集約は、協力金もあり低コストで効果的と思うがどうか？
A 「地域集積協力金（一定の農地集積に交付）」、「経営転換協力金（貸し手）」、「しらかわ型機構集積金（借り手）」の活用を周知しながら集積化を促進したい。
Q 矢武川の橋梁の復旧について
A 市倉上橋は、本年11月頃、釜橋中橋は、県発注で来年3月の完成を目指す。
Q 市街地や農村部の空き家を市内二地域居住用としても活用してはどうか？
A 新たな活用方法として周知していく。
Q ふれあいプールの再開について
A 今年のプール開放に間に合わせたい。



県道矢吹天栄線、日和田町屋間の整備計画の進捗は



戸倉 宏一 議員

令和4年度は道路の詳細検討や地形測量をする



「県道矢吹天栄線、日和田町屋間の整備計画について」
Q 県道矢吹天栄線、日和田町屋間の整備計画について、この区間は当地域の交通の要衝であり、一日も早い道路改良が望まれる区間である。その改良整備計画の進捗状況を伺う。
A 昨年、市長が県に対し、道路整備について要望を行った。令和4年度から地元説明会、道路の詳細設計、地形測量を実施すると聞いている。市として事業が推進されるよう支援していく。
Q 少子高齢化の中、各自治体の継続に危機感を抱いている。県南地方中核都市として、近隣町村と共通認識を持ちながらリーダー的役割を担うのか、その広域構想を伺う。
A 本市は平成27年に東西しらかわ9市町村で定住自立圏形成協定を締結し、共生ビジョンを策定した。中心市として求心力や牽引力が必要と考えている。また、県境を越えた栃木県北部の自治体との連携も深め、圏域の個性を活かし、魅力を高め、多くの人が地方で暮らすことの豊かさを感じられる地域づくりを進める。



おくやみ窓口の今後の周知の仕方は？

広報紙、ホームページで周知を行う



室井 伸一 議員



Q 昨年10月に開設された「おくやみ窓口」の利用件数とサービスの内容は。

A 2月末現在での利用件数は60件で月平均12件程度となっている。相談手続きの内容は、国民年金、国民健康保険、介護保険、税金関係など、最大で33の項目があり、13の課にまたがることから関係課との連絡を密にしながら、死亡に伴う各種の手続きをワンストップで行っている。窓口を利用するにあたっては、事前予約を基本としている。



Q 脳と身体に刺激を与える「オーダーメイド」の脳トレニングを行うことについて

A 本市では東日本大震災発生以降、徳島大学から支援を受け、児童生徒の体力低下を改善する方法の一つとして、平成27年度より小中学校に「オーダーメイド」の脳トレニングを導入しており、現在は、すべての小中学校で、体育の時間などで取り組んでいる。また、徳島大学名誉教授の荒木秀夫氏を講師として、小中学校の教員を対象に研修会を毎年実施している。

白河第三小学校の校舎床の改修について

令和4年度より3ヵ年計画にて実施していく



吉見 優一郎 議員



Q 白河の関・関の森公園及び旗宿地域を含めた将来像について

A 白河市観光振興計画において、小峰城跡・南湖公園・白河関跡を三大観光地と位置づけ、歴史的背景に基づき、非日常を感じられる空間づくりを目指している。また、今年度より公園のリニューアル及び白河関跡、旗宿地域を含めた活性化を図るための委員会を、多様な意見が反映できるようなメンバーで構成し、基本構想の策定に着手したところである。

Q 国道294号バイパス工事に伴う中心街地の沿道及び歩道の整備について

A 本町四辻から中町方面の歩道については、県による修繕と水道工事による復旧により改善される予定。また、本町四辻から年貢町方面の歩道については、早急に修繕するように県に強く要望する。

Q 武道館等の教育施設の改修について

A 武道館の耐震補強改修については、今年度内工事完了予定で、4月上旬の利用再開を見込んでいます。白河第三小学校の床改修については、令和4年度より実施していく。



農業経営の安定に向けた対策を

国に実効性のある対策を要望する



菅原 修一 議員



Q 有機農業や環境保全型農業などの持続可能な農業にどのように取り組むのか。

A 環境に配慮した農業の普及に向けて、有機農業などの取り組みを支援してきた。さらに省力化・効率化に向けたスマート農業の支援、生産者の負担や環境負



担の低減に取り組んでいく。こうした取り組みを通じて、大地と共生しながら安定した食料供給を支える食料システムの構築を推進する。

Q コロナ禍で今後数年は米価の下落が続くと予測されることから、関係機関や国に対し強力で要請すべきと考えますが、本市の対応について伺う。

A 今後の米価動向に不透明感が増していることから、米の過剰在庫分については国が緊急買い入れするなど、実効性のある対策を講じるよう引き続き要望する。

Q 小峰城北側の整備について

A 樹木・竹林は順次伐採する予定。外堀跡は将来、水堀として復元することとしている。

特別支援学級の全校設置と特別支援における人材育成を!

2つの学校で設置が見送られた。研修と支援学校との教員交流で指導力向上に努める



大木 絵理 議員

特別支援学級は今年度2つの学校で設置が見送られた。設置されていない学校は支援員の配置と児童生徒ごとに支援計画を作成し、配慮している。研修等を行い人材育成に努める。



Q 南湖公園は今後の更なる発展に期待しているが、その目指す方向性を伺う。
A 保存と活用のバランスを図るため「白河市南湖条例」を本定例会に提案した。「市民共楽」の地として魅力を増すよう、なお一層努力していく。

Q 南湖公園周辺の松林の保全是環境や人体、ミツバチ等の生物に影響のないやり方で行ってほしい。
A 規模と予算面から現状としては薬剤空中散布方法で実施せざるを得ない。今後も調査研究をしていく。
Q 市民の環境美化意識の向上を図るため、地域の清掃活動に取り組んでいる団体等を周知・広報してはどうか。
A 新年度から、美化活動の取り組み内容を市のホームページや広報紙、SNSなどにより周知を図っていく。
Q 特別支援学級の配置ならびに人材育成について

〈令和3年度特別支援学級の設置状況〉

	市内小学校	市内中学校
知的障がい	15	6
自閉症・情緒障がい	11	7
弱視	2	0
難聴	1	1
計	29	14

※令和3年度は前年度に比べ3学級の増

コロナ禍の中、鈴木市長より今年1年の抱負について

「真の地方の時代」に向け地域の魅力を磨き引き出していく



縄田 角郎 議員



Q 鈴木市長より、今年1年の抱負について、議場においてもお聞かせ願いたい。
A アフターコロナの社会では、多くの人が本当の豊かさを実感できる「真の地方の時代」を迎えられるよう、市民の皆さんとともに地域の魅力を磨く。

Q 台風19号災害の災害復旧の進捗状況について
A 農地647件、農地の復旧は令和2年度までにすべて完了、農業用施設は2件を残し1407件が現在までに完了、公共土木施設の復旧状況について、全体で510か所のうち、3月末までに508か所が完了する見込みである。
Q 上下水道事業について。上下水道は地域を支えるため不可欠な社会基盤と考える。事業内容及び上下水道施設災害対策について伺う。
A 水道水を安定供給するため、管路パトロールや漏水調査による異常管路の修繕に取り組み。下水道事業については、公共下水道の整備状況が、事業認可面積1170haに対し1017haが整備済みで、進捗率87%、水洗化率97%である。



脱炭素社会実現に向けて、市の取り組みは

市独自の地球温暖化対策実行計画を策定予定である



大竹 功一 議員



Q 脱炭素社会実現に向けた市の取り組み「脱炭素チャレンジしらかわ」の内容は。
A 4つの事業からなる「脱炭素チャレンジしらかわ」を予定している。まず、市独自の実行計画を、専門的知見を要することから大

学や企業等の専門家に検討委員を依頼し策定したい。次に小学生を対象に企業と連携した「省エネ・学び講座」の開催。3点目に市民からの公募による「しらかわ環境スローガンの決定。最後に公用車の次世代自動車への更新及び市内小学校照明設備のLED化を行う予定である。
Q 野良猫に対して餌付けだけをし、頭数を増加させ困っている高齢者が増えている。高齢福祉の観点からも相談に乗ったり、担当課に連絡したりする必要がありと思うが現状はどうか。
A 福祉関係者から報告を受けている事例については担当課に連絡している。今後とも把握に努める。



妊婦や赤ちゃんのいる世帯への支援を問う



高橋 光雄 議員

子育て用品クーポン券を2・3歳児まで拡大 新生児の保護者に5万円給付



Q 令和4年度に、妊婦や赤ちゃんのいる世帯に対し実施する主な支援は何か。

A 令和4年度に生まれる新生児の保護者に5万円を給付する。0歳児と1歳児の保護者に子育て用品購入用クーポン券を支給してきしたが、2歳児、3歳児の保護者まで拡大する。

Q マイナバーカード普及のために何をやるのか。

A 出張申請受付を2班体制にして商業施設、イベントなどに出向く。本庁舎の窓口数を2から6に増設し、夜間・休日窓口も増やす。

Q 側溝整備の全体計画と既に完了したのは何kmか。

A 令和2年度から7年度まで13・3kmを改修する。3年度末までに4・3km完成済み。4年度は2・4kmを予定。以後、毎年約2kmずつ改修し7年度完了予定。

Q 「れきしら」入門編の配布について

A 授業での使用頻度が高く、自ら学ぶことができるよう、新6年生に配布する。

Q サテライトオフィスへの入居状況は。

A 社長が本市出身のジョルダン(株)を含む2社の入居が決まっている。



健康ポイント事業の参加者を増やすための方策は



藤田 文夫 議員

各種イベントとの共催を図り、参加者の拡大に努める



Q 健康ポイント事業の概要と参加者を多くするため取り組みについて伺う。

A 歩くことが、生活習慣病予防に効果があることから、昨年5月にタニタヘルスリンクと包括連携協定を結び「健康ポイントプログラム」を導入し、活動量計

またはスマホアプリを使用して、ウォーキングや体組成の測定、健診の受診等にポイントを付与し、楽しみながら「歩くこと」を中心とした健康づくりに取り組んでいただく事業である。来年度は、これまでの取り組みに加え、地元企業へのPRや市で実施している教室や講座、各種イベントとの共催を図り、健康づくりのために、今年度参加者数の約2倍、1200人を目標に参加者の拡大に努める。

Q 部活動指導員制度の概要について伺う。

A 競技の専門家を部活動指導員として中学校に配置することで、生徒の競技力の向上だけでなく、教員の部活動指導に係る時間の軽減など、教員の働き方改革を図ることが

できる。



令和3年2月の地震で破損し修復工事が完了し家族連れでにぎわう鶴子山公園(表郷金山)

幼稚園、保育園、学校での感染ひろまり



柴原 隆夫 議員

6か月経過順に速やかなワクチン接種



Q コロナ・オミクロンは感染力が強く10歳未満の子どもにも感染し、子どもから「家庭」へ、家庭から「子ども」への感染連鎖となっている。幼稚園、保育園、小中学生への家族及び公共サービスを提供している消防署職員、一部事務組合(ゴミの収集)への優先接種が必要と思われるが。

A 2回目から6か月が経過しないと3回目の接種はできないが、これまでも公共サービスの重要性から余剰ワクチンを活用して優先接種を行っている。

Q 全国で幼稚園、保育園の職員がコロナに感染し臨時休園に追い込まれ、家計に深刻な影響を及ぼしている。対策として資格を有する保育士のボランティア募集したところ、多くの応募があり、保育士不足が解消され、通常の保育業務を維持できている自治体がある。

A 保育園の休園は家計に大きな影響を与えることから、代替職員の確保については十分に検討する。

Q コロナ禍の高校受験の救済措置はあるのか。

A 追試験を含め対応措置が講じられている。



多くの学校で感染拡大

再犯防止の取り組みについて

「再犯防止推進計画」の策定に向けて準備を進める



鈴木 裕哉 議員



防止に対する取り組みについて伺う。

A 犯罪や非行をした者の中には、安定した仕事や住居がない、薬物やアルコール等への依存がある、高齢で身寄りがないなど、様々な問題を抱え、生きづらさを感じ、再び罪を犯す者もいる。

本市は毎年7月、犯罪をした人たちの更生を目的とした「社会を明るくする運動」といった啓発活動や市防犯協会の巡回パトロール、SNSや防災無線による注意喚起、少年センター補導員の下校時刻に合わせた巡回補導や声掛けを行っている。

また、今後「再犯防止推進計画」の策定に向けて準備を進め、計画の効果が確実に得られるよう、現状の把握、就労・住居・保健医療・教育などの様々な観点から検討を行う。

Q 犯罪に関するデータによると、白河管内の再犯率が56%と、犯罪者の半分以上が同じ罪を犯している。再犯防止のために地域の保護司をはじめ、国・地方自治体・民間が一丸となった取り組みが必要と考えるが、本市の更生保護及び、再犯防止に対する取り組みについて伺う。



市民の健康寿命延伸対策を伺う

健康ポイント事業の推進



石名 国光 議員



を中心とした健康ポイント事業を昨年9月に開始。生活習慣病の発症や重症化を予防するため、検診結果説明会や家庭訪問など、生活習慣の改善支援に取り組んでいる。また、高血圧を予防することを目的に、小学6年生に尿中塩分摂取量の測定や医師による講話を実施している。

Q 観光ステーション整備事業について
A 来街者が自分にあったプランづくりをする体験型観光案内所を目指し、地場産品の試食や試飲、観光地検索サービスの提供、動画の発信、まち歩きマップの作成など、市内に観光客を誘う取り組みを推進し、新たな賑わいの創出に努める。

Q 防災マップの活用方法について
A 4月からスマートフォンなどで浸水区域や土砂災害区域、避難所が確認できる地域情報マップを順次運用する。

市民の「健康寿命」延伸のための健康増進の取り組みについて伺う。

Q 市民の「健康寿命」延伸のための健康増進の取り組みについて伺う。
A 健康寿命延伸には多くの市民が健康づくりを実践・継続できる取り組みが重要。従来の事業を見直し、活動量計やスマートフォンアプリを活用し、歩くことを中心とした健康ポイント事業を昨年9月に開始。生活習慣病の発症や重症化を予防するため、検診結果説明会や家庭訪問など、生活習慣の改善支援に取り組んでいる。また、高血圧を予防することを目的に、小学6年生に尿中塩分摂取量の測定や医師による講話を実施している。



市教委に連絡なく、小中学校にアルプス処理水のチラシ送付される

5つの小中学校で配布されたが、使用は見合わせることに



深谷 弘 議員



記述されているが、その内容は、安全性を強調する政府見解そのもので、学習活動における政治の中立性を脅かすことになるのでは。

A チラシは全ての小中学校に送付され、5つの小中学校で配布された。配布した学校での使用は見合わせるよう指示している。

Q 市民生活と生活保護行政
Q 市民税課税状況を見ると、課税標準額（課税所得）200万円以下が7割を超えている。コロナ禍で浮き彫りになった格差と貧困、誰しも失業、病気などで働けなくなれば生活が行き詰まる。セーフティネットとしての生活保護制度の徹底が求められる。市の窓口対応などで問題はないか。
A ていねいな説明・対応を行っている。新たに、「生活保護のしおり」をホームページに掲載する。

市民生活と生活保護行政
Q 市民税課税状況を見ると、課税標準額（課税所得）200万円以下が7割を超えている。コロナ禍で浮き彫りになった格差と貧困、誰しも失業、病気などで働けなくなれば生活が行き詰まる。セーフティネットとしての生活保護制度の徹底が求められる。市の窓口対応などで問題はないか。
A ていねいな説明・対応を行っている。新たに、「生活保護のしおり」をホームページに掲載する。



6 月定例会の予定 正式には6月16日の開会日に決定します。

● 時間：午前10時から ● 場所：本庁舎4階 議場

6月16日(木)	本会議【開会、会期決定、提案理由説明】
22日(水)	本会議【一般質問・質疑1日目、委員会付託(請願・陳情)】
23日(木)	本会議【一般質問・質疑2日目】
24日(金)	本会議【一般質問・質疑3日目、委員会付託(議案)】
27日(月)	委員会【各常任委員会・付託案件の審査】
29日(水)	本会議【各常任委員長報告、質疑、討論、表決、閉会】

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、傍聴の際は検温、マスク着用、手指消毒にご協力をお願いします。

本会議はインターネット中継及び録画配信を行っています。

こちらのQRコードを読み込んでください。



南湖の恩恵を享受し、次世代に継承するために

議案第15号 白河市南湖条例

白河市の名勝の一つである南湖公園は、時代の移り変わりや社会の変化などにより、自然環境や景観も少しずつ変化しています。そのため、南湖の環境が変化しても、豊かな自然環境と優れた景観を保全し、魅力を高めながら、未来へと引き継いでいくために制定されました。



子供たちが大活躍したオオハンゴンソウ駆除
(令和2年9月27日)

駆除活動」などを行い、南湖の貴重な植物を守る活動も行っております。

同公園から南湖までは散策路が整備されており、四季折々の美しい里山が楽しめます。白河の宝である南湖にはまだ知らない魅力がたくさんありますので、ぜひおでかけください。

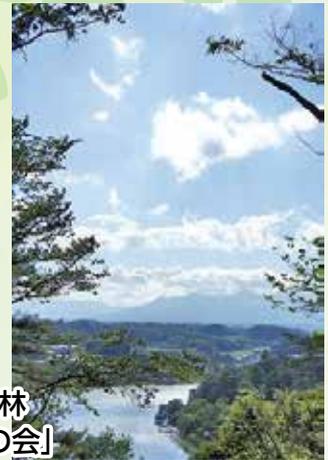
クローズアップ事例
4/1施行

取材レポート

「NPO法人南湖森林公園案内人の会」

「NPO法人南湖森林公園案内人の会(代表人見昭男さん)」は21名で、南湖に隣接する南湖森林公園を拠点に、同公園の維持管理と環境学習事業を通じ、市民が豊かな時間を過ごせるようにと活動しています。

毎年、子供たちの環境学習や昆虫教室のほか、黒沢高秀教授(福島大学)の協力のもと、元々南湖に生えていた植物に悪影響を与える特定外来生物である「オオハンゴンソウ



編集後記

表紙右上の片野仁人さんは、東地区の耕作放棄地を利活用し農業分野での持続可能な開発目標(SDGs)に取り組み笑顔の素敵な青年です。

写真左下の山田慎一さんは大堀相馬焼の魅力と伝統を伝承する職人で、最近では白河焼きにも挑戦している好青年です。

私たち議会編集委員会では少しでも市民の皆さんに読みやすく、わかりやすい、内容のしっかりした議会だよりをお届けできるよう尽力して参ります。

高島委員

